

参加費
無料



富山県の未来をみんなで考える

教育を語るつどい

講演会・パネルディスカッション

8/4日

時間

14:00~16:30
(13:30開場)

会場

高志会館2階カルチャーホール
富山県富山市千歳町1-3-1

講師

桜井智恵子さん

関西学院大学人間福祉研究科教授。単著『教育は社会をどう変えたのか—個人化をもたらすリベリズムの暴力』(明石書店)『子どもの声を社会へ—子どもオンブズの挑戦』(岩波新書)『市民社会の家庭教育』(信山社)



第1部14:05~15:05

基調講演

演題「教育における子ども・大人の現在と『ウェルビーイング』」関西学院大学教授の桜井智恵子さんによる講演。

第2部15:15~16:30

パネルディスカッション

テーマ「富山県の『高校改革』と求められる教育のあり方」。講師を含む3人のパネリストとコーディネーターによるパネルディスカッション。フロアを交えての質疑応答や意見交流もあります。

少子化、人口減少で学校や子どもはどうなるの？

「高校再編」いま、何が起きているんだろう？

子どもたちのために、私たち大人にできることは？



いま、子どもと大人をとりまく社会は？

文科省の調査では2022年度の小・中の不登校児童・生徒数は約29万9000人、小・中・高・特支のいじめ認知件数は約62万2000件と、ともに過去最多です。この背景には、子どもたちの生きづらさや経済格差など、さまざまな問題が考えられます。

教育当事者どうしの対話・議論を

中学校卒業予定者数の減少が見込まれる中、富山県では高校再編や学科・コースの見直しなどの検討がすすめられています。少子化にともなう数合わせの再編ではなく、一人ひとりの子どもが自分らしく生き生きと学べる学校づくりが求められます。そのためにも、教育当事者（子ども、保護者、教職員、地域の人々）が、互いに尊重し合い、民主的に対話・議論する場が必要です。

「教育を語るつどい」がめざすもの

「富山県の未来をみんなで考える 教育を語るつどい」は、さまざまな参加者が、富山県の教育について語り合う集会です。第1部に子ども論、教育社会学に詳しい桜井智恵子さんによる基調講演。第2部では、始めにコーディネーターが県教委による高校再編などの検討状況を紹介。次に、教員・保護者を含む3名のパネリストによるパネルディスカッションを行います。

子どもと大人をとりまく情勢について理解し、教育について率直に語り合うことで、少しでも未来の富山県の展望が拓ける場になれば幸いです。

講師：桜井智恵子さん

専門は教育学、社会思想史。担当科目は「子ども学」「家族と社会」「子どもと権利」など。国立フィリピン大学を経て、大阪市立大学大学院で博士（学術）。現在、兵庫県川西市子どもの人権オンブズパーソン専門員・きのくに子どもの村学園や市民セクター政策機構で理事など。昨年、北陸3県の「親と子のリレーションシップほくりく2023 inいしかわ」で、こども家庭庁長官や子どもたちとシンポジウム。

共編著で『戦争への終止符』『主権者はつくられる』『揺らぐ主体/問われる社会』、共著『自立へ追い立てられる社会』、『「民意」と政治的態度のつくられ方』、論文「こども家庭庁の『こどもまんなか』政治」「取り出されるケア『ヤングケアラー』の構築」（『現代思想』2022年）など。